

時事新報

第一千四百一號
明治廿二年九月三日

舊曆己丑八月九日
日出子後五時十五分
入午後六時五十三分
月入午後十一時四十分
離地一千八百八十九年

空を睨みて心配しつゝありしが少しく荒れ模様ありし
も幸ひ格別のふどにも至らず翌廿六日は殆んど終日降
り續きたるも風あきため甚た穏にして二十七日は快
晴暑氣頗る嚴し○新聞發行 兼ねて噂ありし德島夕
報は二十六日の日附にてその第一號を昨今配達なし居
るが第二號以下は来る三十一日より續々發行する由な

折して過ごの遊覽にて、これまで鐵道車に遊覽に但され、露踏に至り宮

用事
年表

北海道鐵道
昔し或る老功家あり國を開くの三要訣を得たり或るノ試に第一を問へば答へて道路なりと云ふ更に其第二を問へば第二も亦道路なりと云ふ是れば古風の問答にして今の大國要訣を説くものは單よ道路と云はすして之れより入れ換ふるに鐵道の二字を以てし第1第一總べて鐵道と以て答ふるとあらん現よ歐米文明國の實際を見るに都會人家の立ち込みる場所は木道石道砥の如く人馬往來の筋を分ちて雨に泥濘、風に塵通行人の迷惑を來す等の場合あく山村僻落より至りて多く市街の手入れは行き届きて毎度感心するとあれども都會と都會、村落と村落とを聯接するものは唯一の鐵道あるのみにして古道は有れども行く人なく或は已に荒廢に委して牧場田野に化したるものあり郊外遊歩運動の地、馬を駆り馬車を進むる者の外は一寸隣村に赴くにも四通八達の鐵道ありて誰れとて之れに由らざるものなく國道官道縣道等特よ區別を立てずして唯一の鐵道即ち唯一の國道なるものゝ如し近頃歐洲の或る論者中に國道は政府の持つものなり今之鐵道は國道なり故に鐵道は政府の持つものなりとて偏屈ある三段論法を據へ鐵道を官有に歸せんと論するものあり國道は何故政府のみの所持す可きものなりや今一層その論拠を固められざれば右の論法は無効たるを免れざれども鐵道即ち國道なりとは疑ふ可らざるの事實にして歐米文明の國々に此思想の既に普通なるを見る可きなり然るゝ我が日本にては今尚ほ開國の古要訣を守りて普通道路を開道即ち唯の鐵道線路より開いたる街道は空虚なれども鐵道線路より開いたる道路は目下次第に開道の建築師は更に便道と測量して之を其線路と爲し追跡し又之を修繕するに多額の金を費すものあり斯くて鐵道開道すれば復た並木の街道を行くものあく多くの金と多くの人夫とを費して折角修築したる街道は空しく草薙に埋めらるゝのみ現よ福島縣の如き道路縣令のふ慮を以て縣下道路の立派なると日本國中比類なき江戸、横向、岩見沢、市来知等を始めとして人口增加地に鋪するの趣ありと云ふ聞く所によれば北海道にては十餘年來既に二百餘里の道路を開き人馬往來の便に供したれども如何せん荒蕪新拓の地あれは夏季中茅蓬を生じ易く立派なる道路も忽ち原野の貌を呈して人亦之を往来することを好まず之に反して國內鐵道の沿線は方便を以て間に合せの道路を開通し之を荒廢に委せんよりは前途永遠の計畫を以て始めより鐵道を開通し開拓の時遇到來せしものにや近來其事業々經歷ある老若くは商工業に活動なる人々が北海道炭礦鐵道會社社員も已よ二十年の歲月を経し人事の經歴漸く熟して

一英里間の鐵道を作り追ては上川郡忠別を併せて全線百十
根室方面に延長し上川、立知、兩龍、樺戸、夕張の諸郡即
ち石狩平原に鐵道を貫通せんとするの計畫あり此石狩
平原の地積は二億七千四百八十萬坪と稱し一戸一萬坪
と割り當るも尙二萬七千餘戸を容るべく又之を開闢し
盡して凡そ九萬町歩の農園を得、其一段歩三圓の
の農產物を生ずるものとすれば年々二百七十萬圓の
収穫ある割合にして此平原に鐵道を起すは殖民拓地上
に於て最大無上の利益なれども如何せん今日にては二
帶廣漠たる原野にして乗客貨物のなる可きやうあく當
分收支相償はざるが故に鐵道資本を五百萬圓とし更に
百五十萬圓を以て炭礦採掘の業を起し炭礦鐵道兩事業
資本六百五十萬圓を打して一丸の會社と成し事業の
如く既くまで其營業資本に對して政府に年五%の利子
保證を仰ぐの見込なりと云ふ今假りよ此保證の利子
を年に二十萬圓と見積るも十箇年より二十萬圓にして從
來の開拓費額より見れば左迄の巨額と云ふと得ます
且つ北海道驅よ於ては今明治二十二年度より向ふ五箇
年間に於て道路橋梁排水堤防並に下水設置の爲め凡ろ
百三十四萬七千八百五十餘圓を使用するの見込なりと
云ひ苟も運輸交通の便を助けて全道の開拓繁昌を増す
可きものは其出費の多きとも顧みざる程の場合なるが
故に開拓の時運も漸く熟し彼の鐵道の利器に由りて大
に交通の便を開き人よ富源の手振りを與へて移住殖民
の數を増し且つ其沿道の地價を高めて結局全道の繁榮
を致さんとする今日、年に二十萬圓位の利子保證は固
より算するに足らざるなり今日新地を開拓するの要計
は唯一の鐵道あるのと面して我が北海道開拓より經歷わ
り又熱心なる有志諸氏が着眼正に此に及んで其起業の
端を開かんとするは畢竟時運の到来せしものにして我
輩は既往開拓策の長短如何を問はず唯今後より發起する
ものが果して能く其目的を達して事を大成せんことを望
むものあり

簡國までは目下鐵道布設に大熱心なるより當國の有志者俄かに奮發し麻植郡鶴鳴村の豪家川真田市太郎氏等が首唱者となり資金五十萬圓を募りて一の鐵道會社を創立せんとて目下取調べに從事し居れば何れ本年中には組織の運びに至るべし。市制實施に就て、徳島市制を實施するは来る十月一日にあり然るゝ從來徳島市街として限られた各町村の中には地處經營物等の各町村に屬するもの多少みられる。又目下何れもこの所分方に付き委員を設けて協議最中なり。の委員は他日市會議員の地位を占むべき意味合もあれば暗に被撰舉さるゝや未だ是と云ふべき確説になけれども多分は井上高格氏が撰ばるゝならんと申し合へり。河身後濱の風説 德島の安治川とも云ふべき富田川は近年次第に土砂埋まりて船舶の通行にも不便を感じる勢であるに至っては通船の不便のみか徳島の繁昌にも影響を及ぼすべしと頻りに心配する人多かりしが縣廳よりも樂て置き難く見込みしものと見え先づに後濱すべき箇處を測量し又大坂にて浚渫用の諸器械を買入るゝ内議もある由洩れ聞えしよど忽ち同川筋の地所は騰貴の色を顯し來りしが其後右の崎は中止同様の姿となりたれば失望せし人も多し尤も富田川をして小汽船の通行を自由あらしむる迄は浚渫し得ば徳島の繁昌を極むるは疑ふべくもあらざるなり。

○徳島の藍況 同縣本年の新藍葉の上中等の兩品は秀に賣立よく併し相場は一寸格安の工合なれども買入甚なうらず。場況は中々の賑合なり古藍在荷高は二千二百本之れも各地方染工の不振に拘らす相場は目先き手堅く持耐る市況なりと同地よりの近信に見ゆ。

○聯合繭絲共進會 来る十五日より同二十九日まで十五日間兵庫縣但馬國豊岡町に於て第四回兵庫縣繭絲葉組合聯合繭絲共進會を開設するよし

○佐野の瀧 ふの瀧社友用三名箱根よ遊び所謂佐野の瀧を一見し歸京の後物語りて曰く東海道鐵道の開けて北は即ち新箱根あり舊箱根には七湯ありて夏季都人士の遊浴する者多く其地亦大に開けて天然の佳境も世人の耳目に慣れ奇景却て奇ならざるの觀ありと雖も舊箱根は國府津停車場より北に折れ酒匂川の流れに沿ひて北は即ち新箱根あり北に折れ酒匂川の流れに沿ひて次第に溪間に入り所謂箱根の七壁道七鐵橋を左曲右

遊ひ沼津
は文と野
くの遊
時餘の汽
山中佐野
佐野の瀧
して此地
る恰も其
の川とな
の細流を
瀧富士見
流して中
志て半鳴
物等を露
慷慨とする
物等と露
慷慨とする
境を作り、
汽車に依
館新築の
境を作り、
の紅塵を
館新築の
の賣捌き
○新聞雜
の因果が
の賣捌き
豪賣する
は世の開
世界開闢
の因果が
の賣捌き
勤勉到ら
勞苦せざ
と云ふ假
て愛婦の
の喜んで
品よりも
して假令
ふとも米
對の寶玉
し益し銀
と歸ばす
美なれど
するの時
り指先を
光を散ら
さるは野
ては厭の
婦人は如
人の妻女
るものば
耳より一顆